

胸痛精査のすすめ方

狭心症とは労作に伴い胸痛、胸部圧迫感を自覚する病気です。したがって、運動や薬で心臓に負担をかけて評価を行います。ただし、少しずつ症状が進行し、安静時でも胸痛が出現し始めた場合には、すぐに入院して詳しく調べる場合もあります。

まず、採血、レントゲン、心電図を行います。
次に、以下の3種類の検査で、さらに詳しく検査を行います。

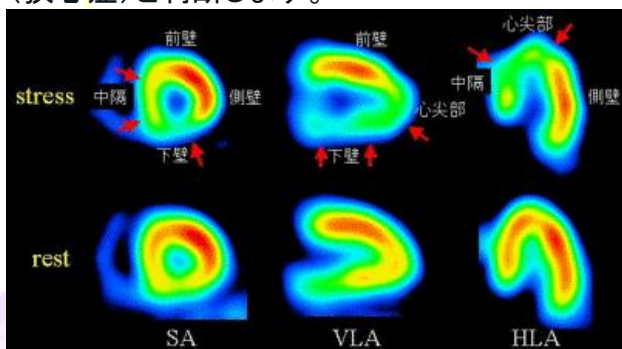
1. トレッドミル



心電図を装着し、ベルトコンベア上を走って、心電図変化、症状の有無を確認します。

2. 心筋シンチ

心臓に集まる放射線物質(ラジオアイソトープ)を点滴し、運動時、安静時の集まりを評価します。運動時に染まらない部分は血のめぐりが悪い(狭心症)と判断します。



3. 冠動脈CT

造影剤を用いたCTを撮影し、冠動脈の狭窄部位、閉塞部位を評価します。



上記の検査を行い、さらにカテーテルでの詳しい検査が必要となった場合は入院となります。

- * 患者さまの病状により検査内容が変わることがあります。
- * 専門用語に関してはインターネットなどで検索できるように省略していません。